

臨床技能実習室（スキルスラボ）の概要と業務について

筑波大学医学系技術室 医学教育企画評価室（PCME）実習担当

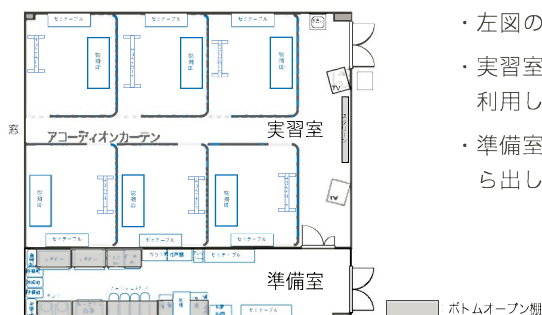
大里 和美、阿部 まゆみ

はじめに

現在、PCME 医学類実習担当の技術職員が学群棟と附属病院総合臨床教育センター（以下、教育センターと称す）の2つの臨床技能実習室（以下、スキルスラボと称す）の部屋と機材の管理を担当している。これらは主に学生実習、臨床実習、病院職員の講習・研修等で利用されている。

数多い機器を管理し運用するにあたって、効率良く、且つ利用者が使いやすいように様々な工夫をしている。また専任の管理者ではないため、限られた人力で実習支援業務と両立させるために、「わかりやすく」と「省力化」を心掛けている。

学群棟のスキルスラボ



学群棟のスキルスラボの配置図

- ・左図のように準備室と実習室とで構成されている。
- ・実習室は30名程度のシミュレータなどを使用する学生実習や、病院職員の講習等で利用している。年間約100回程の利用がある。
- ・準備室にはシミュレータ等の機材が収納されている。利用ごとに必要な機材をここから出して実習室等に配置する。また、使用後のメンテナンス作業に利用している。

準備室の収納

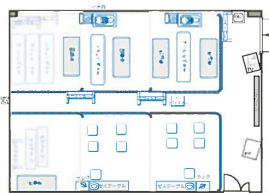
- ・機材は一目で分かるように、扉の無い棚、ガラス扉の棚を使用して、見通し良く収納した。
- ・底板の無いボトムオープンタイプの棚を多く活用した。台車やキャスター付のシミュレータもそのまま棚の下に収められるので、効率的に収納することができる。
- ・使用目的別に付属品や消耗品を揃えた一式をあらかじめ幾つか用意し、すぐに取り出せるように整備した。



実習室のレイアウト

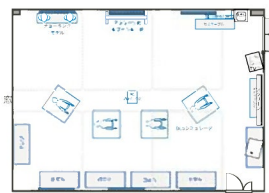
- ・長方形の部屋を実習や講習の形態に合わせて縦方向にも横方向にも使用できるようにレイアウトを考えた。
- ・アコーディオンカーテンで6つの独立した部屋として使える他、様々なアレンジが可能である。

例1：診察法演習（胸部）



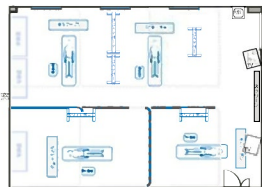
2項目を2グループずつで実習を行う。初めにアコーディオンカーテンを開けた状態で全員でDVDを視聴する。その後カーテンで図の様に仕切り、2グループずつ心音と呼吸音の項目に分かれて実習を行う。お互いに聴診の練習を行うので、きっちり2つに分ける必要がある。

例2：学生BLS実習



デモの映像を見ながら実技を行うので、どのグループからも見やすいようにシミュレータを配置。

例3：ACLS試験（4組）



1組当たりの機材と人数が多いので広めに区切る。メンバーに指示を出す等の声を出すことが多いのでなるべく他のグループが気にならないようにアコーディオンカーテンやホワイトボードで仕切る。

